

## 学生の活動報告

仁愛女子短期大学 生活科学学科・幼児教育学科

### フクイ夢アート2013

#### 【JSDハロウィンパーティー】

生活科学学科 生活環境専攻 才場 穂乃花

フクイ夢アート2013最終日は「ハロウィンパーティー」。ハロウィンパーティーとは私たちが仮装して駅前の人たちにお菓子を配るイベントです。今年のテーマは「ファッションモンスター」。みなさんならどんなファッションモンスターになりたいですか？自分のイメージしたファッションモンスターになりきるため、衣装を制作したり、メイクを考えたりしました。そして最終日、駅前にはピエロ、ナース、ドラキュラ、オオカミ、リボン星人、マドモアゼル、囚人などさまざまなモンスターが出現しました。仮装の衣装は、手作りやリメイク。デザイン画から始まり、布を染め、裁断、縫製しました。作っている時は早く着てみたいとウキウキしてすごく楽しかったです。出来上がった衣装を実際に着てみると本物のファッションモンスターになれたみたいで、なりきってポーズをしてみたり、いろんなところを歩きたくなりました。当日、駅前を歩いていると若者からお年寄りまでいろんな人たちに声をかけられたり、一緒に写真を撮ったりと、まるで有名人になったような気分になりました。小さな子供は私を見ると泣き出してしまったり、怖いって叫んでたりしていたけど、お菓子をあげるとありがとうと喜んでくれて、その笑顔を見るのが幸せでした。お菓子をあげるという小さな行動で笑顔が生まれる、それがすごく幸せなことだと感じました。



#### 【じんたんたんたうん】

生活科学学科 生活環境専攻 濱崎 里菜

「じんたんたんたうん。」とは私たち生活環境専攻で企画したフクイ夢アートでの催しの一つです。一般の人や学生が紙で箱の家を作っていく、最終的には大きな街となる参加型の企画です。箱の一面には福井の井の字を表した九つの穴が開いており、その反対の面には福井駅周辺の思い出などを綴ったイラストやメッセージが描いてあります。

じんたんたんたうん。の準備をするにあたって私は箱の展開図の型紙や箱の見本をつくりました。展開図をつくるにしても、どの形の展開図がつくりやすく強度があるのかいくつかの試作と比べ型紙をつくりました。しかし、実際に友人に箱をつくってもらったら自分の理想通りの形にならなくてもっと詳しく誰でも簡単に箱を考えないといけないなと思いました。試行錯誤を繰り返し、工夫したことは全て皆に伝えました。

フクイ夢アートが始まり日数を重ねるごとに増えていく箱の家には様々な形の穴が開いていて人それぞれの個性が現れていました。その穴を覗き込むと路面電車のイラストや友達の似顔絵など、その人の思い出がたくさん詰まっていたのがとても楽しかったです。

最終日には大きな街ができており、夕方には家一つ一つが明かりを灯し幻想的な雰囲気に包まれました。

私はこの企画を通して自分の考えを人に伝える難しさを知りまた一つ成長できました。



【おはなめもり】

生活科学学科 生活環境専攻 山口 友希

フクイ夢アート2013にて行われた「おはなめもり。」はJSDプロジェクトの企画の一つです。紙に緑のペンで名前を書き、名前の先端には五本の指で指紋のスタンプを押します。名前は『茎』に見立てたもので、指紋は『花びら』に見立てたものです。名前と指紋で咲いたお花は自分という存在の証。この企画を通して、夢アートに参加した人々の証を残したい。参加した人々の記憶として残って欲しい。そう願いを込めて、「おはなめもり。」というネーミングを提案しました。「おはなめもり。」は、私たち生活環境専攻の学生だけでなく、駅前にきた人々誰もが参加することのできるアートワークショップとなっており、実際にたくさんの人々に参加していただくことができました。参加者の作成した「おはな」は壁に展示していくので、数が増えるごとに壁いっぱいにお花畑が広がっていきました。展示されているおはなを一つ一つ眺めてみるとそれぞれ個性が見られます。元気のある色使いで紙いっぱいに描かれたおはなは澁刺とした子供のもの。繊細な花びらで綺麗な色のおはなは上品な女性のもの。このように、おはなを見るだけで、どのような人であるのかが分かりとても面白いです。そして、おはなを通して参加者を思い浮かべる度に嬉しく思うのです。「おはなめもり。」というネーミングが意味したように参加してくれた人々の証を私は確かに記憶として残すことができました。



【だるまさんが、、、ころんだ】

生活科学学科 生活環境専攻 橋本 ゆかり

「だるまさんが、、、ころんだ。」という企画は、生活環境専攻の前田研究室のメンバーで制作した「だるまさん」を展示する企画です。駅前の空きスペースを借りて、だるまさんによる、インスタレーションを行いました。縁起良

く、元気よく、転んでもまた起き上がるというイメージがあるだるまさんをモチーフに、メンバー1人1人が手づくりのだるまさんを制作しました。素材は着物(古布)を用い、スラッシュキルトを使ってつくりました。スラッシュキルトとは、布を重ねてステッチをかけ、切り込みを入れ、それを洗って起毛させる技法のことです。古布を上下に重ねることで、布の表情が変わるところに魅力があります。また古布らしさを出すために何度も洗いをかけて、生地そのものをくたくたにし、むかし懐かしい風合を出しました。だるまさんの形が見え始め、顔のパーツや足を作っていく時は、みんなそれぞれ違った表情のだるまさんが出来上がっていき、非常に愛着が湧いていきました。みんなの個性が詰まった15体のだるまさんは、まるで私たちの分身のように感じられました。天井から吊るした15体のだるまさんは、ゆらゆら揺れたり止まったりと、「だるまさんころんだ」の遊びをしているようでした。この作品を見てくれた人達も、自分の記憶の片隅にあった楽しかった思い出をおもいかえしてくれたのではないかと思います。



まちなか活性化交流イベント  
ふくいまちなか恋文プロジェクトを開催

生活科学学科 生活環境専攻

浅野 萌 小木 晴菜 濱崎 里菜

ふくいまちなか恋文プロジェクトとは、JR福井駅西口周辺「エキマエ」の魅力を、写真とラブレター風に綴った文章で表現し、布にプリントしたものを夢ステーションに展示し、多くの人々に見てもらい、福井の良さを改めて知ってもらう事で、まちなかの活性化に繋げるプロジェクトです。まず最初に私たちが、エキマエを散策し、「コイブミ」を贈りたいまちなかを探し、取材しました。ここでは、今まで気付かなかったお店や場所、人の温かさに改めて気付く

事が出来ました。次に、写真と「コイブミ」を制作し、作品発表をしました。感動するエピソード付きの「コイブミ」もあり、また、自分では気づききれなかった場所を知る事も出来ました。発表後には「コイブミ」を持って、みんなでまちなかへ繰り出しました。たくさんの学生が「コイブミ」を持って歩く事で人々の興味を引く事が出来、とてもいいアピールとなりました。最後には「コイブミ」を一般の方々に投票していただき、投票数が多かった「コイブミ」の取材でお世話になったお店に、オリジナルのお礼状と記念品を持って表彰をさせていただきました。今回、恋文プロジェクトを通して、環境生が一丸となり活動する事が出来、私たちの絆も深まりましたが、エキマエの人々との絆を深める事も出来た様な気がします。



### 「ふくい健康美食」のロゴマークをデザイン

生活科学学科 生活環境専攻 浅野 萌

私は「ふくい健康美食」のロゴマークをデザインしました。「ふくい健康美食」とは、健康長寿で、幸福度日本一である福井県の豊富な食材を活かし、低塩分で野菜を多く使ったヘルシーなメニューのお弁当や惣菜が認証されるものです。このロゴマークをつくる上で私が一番重要視したのは人間の三大栄養素、タンパク質・炭水化物・脂質の食材のデザインです。バランスのよい食事をイメージできるように、三色食品群の赤・黄色・緑で食材のデザインをしました。赤は体を作る食品の魚、黄色はエネルギーになるお米、緑は調子を整える野菜のほうれん草をポップに描きました。背景には太陽の恵みをイメージした濃いオレンジを基調に、まるで一口食べたかのような凹みを入れた円を置きました。この私がデザインしたロゴマークが、福井県の体にいいと認められた食品や料理に与えられる賞として使ってもらえるのはとても名誉なことだと思います。

すし、雑誌などでもこのマークがついているお店があるのは、本当に嬉しいと感じます。



### 鯖江市イメージアップ看板塔 デザインコンテスト最優秀賞

生活科学学科 生活環境専攻

松原 むぎほ 濱崎 里菜

私達は、鯖江市イメージアップ看板塔のデザインをしました。表を松原むぎほ、裏を濱崎里菜が担当しました。

私達が、1番眼鏡らしいと思う部分をモチーフにしました。表は、眼鏡のフレームです。裏は、眼鏡のテンプルです。看板塔なので見た人が遠くからでもわかりやすいように、シンプルにしました。シンプルだけに配置が際立つので、苦労しました。三角形の中での配置はあまり経験がなかったので、たくさんのパターンを考えて、試しました。文字とモチーフの場所や大きさなどを変えて、バランスを良くし見やすい看板塔にしました。

この鯖江市イメージアップ看板塔のデザインをして、ずっと画面上でしか見ていなかったものが実際に形になり人の目に触れるものになった事が、とても嬉しいです。鯖江市と福井市の間で、鯖江市の出入り口として看板塔の役目を果たしてほしいと思います。これからも長く残るものなので、たくさんの人に愛されるものになれば幸いです。



### 南越前町河野観光協会のTシャツをデザイン

生活科学学科 生活環境専攻

嶋田 侑加 平田 実聖

私達は、南越前町河野観光協会のTシャツをデザインしました。左胸の河野のマークは平田実聖、その他を嶋田侑加がデザインしました。このTシャツをデザインするうえで南越前町河野について調べました。河野地区は海に面している地域で河野海水浴場や、越前がになどの海産物が有名です。そして、河野梅が特産品でもあります。この河野梅をベースにし、Tシャツのデザインを考えました。表面のデザインは梅の花と青梅を散らばせ、左胸にある河野のマークから流れているデザインにして爽やかさを表現し、背面のデザインは「我らがんこな河野人」の言葉と、表面と同様に梅の花と青梅を入れました。この言葉にある「がんこ」とは河野地区の方言で、すごい、きつい（強い）という物事を大きく表現する意味として使われます。この言葉から河野の人は強くて地域愛に溢れた人達だということ表現したいと思い背中にこの言葉を入れました。このデザインが採用され河野地区で配布されたのはとても嬉しく感じております。そしてこのTシャツを色んな人に着てもらうことで河野地区をもっとPRできたらと思います。

で何度も聞き直さなければならぬので、ALTの方々と話をするのを避けていました。けれど、私たちにとても優しく、積極的に話しかけてくださり、分からないことがあれば何度も何度も説明してくださいました。優しく接して下さったおかげで私たちからも話すようになり、英語での会話を楽しむことができるようになりました。簡単な英単語ばかりを使っての会話でしたが、身ぶり・手ぶりや表情で表現して通じた時はとてもうれしかったです。ALTの方々に学校内を案内したり、一緒に昼食をとったり、仁短祭の出し物を楽しんだりしました。会話の中で彼らから多くの英語を学ぶことができました。一緒にいるにつれて、だんだん話もスムーズにできるようになり、とても楽しく、時間があっという間に過ぎました。お別れの時にはまだ一緒にいて話をしたいと思うほどでした。

言葉はなかなか通じなくても、伝えたいという気持ちさえあれば相手も理解しようとしてくれ、自分の思いを必ず伝えることができると学びました。また、英語はただ学習するだけでなく、実際に使ってみることでより実践的な会話力を身につけることができると思いました。話をするのに時間がかかって大変なこともありましたが、外国の人と交流をするということとても貴重な経験ができたことをうれしく思います。来年もこのような機会があれば、ぜひ参加したいと思います。



### 仁短祭でのALTとの交流

生活科学学科 生活情報専攻

平澤 美樹 藤沢 晴華

実施日（活動日時）：平成25年10月18日（土）

私たちは秋の仁短祭で高校のALT（外国語指導助手）の方々を迎えました。初めは話しかけられても分からない単語がたくさんあり、話の内容が分からない時は分かるま



ファミリーマートとの連携プロジェクト  
「ファミマものづくりアカデミー」

生活科学学科 食物栄養専攻

今やコンビニエンスストアには新たな商品やサービスが続々と加わり、コンビニエンスストア各社の競争は激化しています。そのような中、本学生生活科学学科食物栄養専攻では、ファミリーマートと連携して商品開発を進める「ファミマものづくりアカデミー」を、2回生を対象に平成25年6月26日に開講しました。この連携プロジェクトは昨年に続き2年目となり、昨年は県産食材を活用した商品8種類を学生のアイデアをもとに開発し、平成25年1月から2月に東海・北陸地方で発売され、好評であったことから今年度も実施することになりました。

1回目のこの日は、ファミリーマート東海・北陸支社の担当者が、同社の概要とコラボレーション商品企画の進め方、商品開発のポイントなどを説明されました。さらに、ファミリーマートで発売されている4商品を試食し、製造を担当している食品メーカーの担当者から商品のコンセプトや開発のポイントなどを聞きました。日頃コンビニエンスストアをよく利用していると思われる学生たちに、まずはどのような商品が売れているのか分析し、商品コンセプトや食材を決定するようアドバイスをいただきました。これらを記入するためのコンセプトシートを配布し、7月上旬に提出することとしました。

2回目は平成25年10月16日に開催しました。学生全員が提出したアイデア商品コンセプトシートの中で、おむすび、麺、パン、デザート(スイーツ)の4アイテムから1点ずつ候補を決め、ファミリーマートの用意したこれらの試作品を試食しながら、改良点を検討しました。

3回目は、平成25年12月11日に商品発表会を開催しました。商品は『ボルガライス風おむすび』、昆布だしであっさり味に仕上げた『レンジカルボナーラうどん』、



県産さつまいものみつ金時を使った『スイート

ポテトパン』、水ようかんの上に果物やクリームをのせた『パフェna水ようかん』を限定販売することになりました。また、生活環境専攻の学生が考案した3種類の商品ラベルの中から、エレガントなデザインのラベルが採用されました。



当日の取材で、『レンジカルボナーラうどん』を考案した学生は、「家でよく作っていたメニューで、絹さやと卵黄風ソースをのせ、彩りもよくなった」と独自のアイデアが商品化されていった様子を説明しました。この商品発表会については、ホームページ内のブログにも掲載しています。

発売初日の夕方には、商品を考案した学生が顧客に試食を振舞いながらPRをしました。県産さつまいものみつ金時を使った『スイートポテトパン』を考案した学生は、「小さな子どもたちが喜んで試食している様子にうれしかった」と感想を述べていました。

ファミリーマートとの連携プロジェクトは、全国で30校の大学や高校で行われています。将来、食を専門としていく学生達にこのような機会が得られたことは幸運であり、この経験を生かしてほしいと思います。

じんあいこどものくに

幼児教育学科

◆概要

日時:平成25年10月19日(土) 9:30~16:00

会場:仁愛女子短期大学 F館

仁愛女子短期大学の大学祭において幼児教育学科では、子ども向けのアトラクションを集めた「じんあいこどものくに」と題する企画を催しています。この企画は、学生が主体となり子どもたちが楽しめる遊び場を企画、準備、実践する機会として位置づけられています。

ここでは、その取り組みについて少し紹介したいと思います。

◆クラス別開催内容

- 1回生Aクラス おばけやしき
- 1回生Bクラス お祭り
- 1回生Cクラス 迷路
- 2回生Aクラス 工作教室
- 2回生Bクラス ミュージカル
- 2回生Cクラス マーケット



大学祭のチラシ



こどものくに 受付



廊下の飾り



1回生Aクラス おばけやしき (入口)



2回生Aクラス 工作教室



1回生Bクラス お祭り



2回生Bクラス ミュージカル (三匹のこぶた)



1回生Cクラス 迷路



2回生Cクラス マーケット



◆感想

〈2回生Aクラス〉

私の上手じゃない説明を一生懸命聞いて工作をしてくれてとてもうれしかったです。また、工作教室が終わった後に「お姉さんありがとう。」と言って帰っていく子どもの姿が一番心に残っています。今回の経験は私の力のひとつになったと思います。

〈2回生Cクラス〉

実行委員として参加しました。こどものくにではもっとこうしたら良かったと思うことが多くあったけれど、子どもの笑顔を見ることができました。保育者になったときに子どもが笑顔になれる遊びの場を作りたいです。